

松本市教育研修センターだより

No.9 令和5年1月5日

「訪問型特別支援教育研修」の成果を先生方に伺いました！ ～ 「まず話をじっくり聴く！聴くことによって子どもが変わる」 山辺中学校 ～

松本市では、「松本市教育大綱（令和4年2月14日策定）」で、すべての子どもがかけがえのない存在であることを前提に、「多様性を育む学び」として「一人ひとりの個性や能力を尊重した学び」を大切にしていくことを掲げています。このことを踏まえ、松本市教育研修センターでは、従来の参集での座学形式による研修会に加え、講師が学校を訪問し、ともに困っている子どもに寄り添った支援について考え、学校全体の支援力の向上を目指す「訪問型研修」を実施しています。この度、訪問型研修を実施している山辺中学校に伺い、校長先生・教頭先生・担任の先生に、研修の成果により、子どもや職員がどう変わってきたのか、今後の取組の方向などについてお話をお聴きしました。

大勢の先生方で観ていく大切さ、山辺中の先生方の温かさ！－教頭先生・担任の先生・校長先生－

★倉澤先生に昨年度から困り感をもっているお子さんについて相談していました。今年訪問型研修に来ていただき、そのクラスだけでなく他のクラスの授業の様子や教室環境も観ていただくようにしています。ロッカー、掲示物、作品など細かい所から子どもをみとる方法など新しい視点を倉澤先生より教えていただき大変参考になっています。

★今までは何かことが起こると「何、やっているんだ」となりがちだったのですが、今は「まずは話を聴く」ところからはじめています。周りの先生方が大勢の目で観ていくと、生徒の安心感につながっているようです。山辺中の先生方の温かさ、そういう雰囲気がある先生方・学校なので、新しい視点をいただき、「おこる、叱る」などの威圧的な指導ではなく、何ができるか考えながら一人ひとりの子どもに接していくことにより、本当にそのお子さんが変わっていくことを実感しています。



★昨年、パニックになると人の話を受け入れられないお子さんがいましたが、倉澤先生のアドバイスを受け、担任が「頭ごなしではなく、まずは話を聴くところからお願いします」と全先生方に伝え、「まずは話を聴く」「みんなで声をかける」ところから始めました。いろんな職員がいい所でその子にかかわり、その場に應じて対応してくださっていました。何かあったら聴いてくださる方、なだめてくださる方、「元気かい」と声をかけてくださる方、いろんな先生方のおかげで落ち着いて生活ができるようになってきました。するとそのお子さんは認められたという実感を持ち、だんだん心を開いてくれるようになってきました。

★倉澤先生からは、専門的な見地から生徒の特性をとらえた具体的な指導をアドバイスいただけるので大変参考になります。対象のお子さんを通じて、「生徒の見方、こういうふうに接すればこうなるんだ」という他のお子さんにも生かせる視点があるのではないかと、少し見えてきたような気がします。一つのスタイルができたので、来年度は「こうやったらこうなるんだ」と一つの財産を共有し、他のお子さんたちの対応にも取り入れていきたいです。

山辺中学校の先生方、取材へのご協力ありがとうございました。「まず子どもの声を聴く」という当たり前のことが、なかなかできなかった自分があります。「子どもの声を聴き、その子のよさを認める」ことで「よき成長へと誘われる」という基本中の基本を改めて学ばせていただきました。

「第4回 ミドルリーダー研修」

～ 学校のチーム力（同僚性）を高める ～

12月16日（金）に第4回ミドルリーダー研修会を開催しました。今年度の最終回となる今回のテーマは「学校のチーム力（同僚性）を高める」。ミドルリーダーの「先輩」として、現在他郡で活躍されている松本出身の教頭先生に、ミドルリーダーとしてどんなことを心掛け、学校内外の方々に働きかけてきたかについてお話を伺う機会を得ました。また、合わせて今年度、先生方の「対話と協働」をベースに「働き方改革の推進」に歩み出している波田小学校の教務主任の先生に実践のあゆみをお話しいただきました。16人の先生方が参加され、ミドルリーダーとして悩みながらも進めてきた「学校のチーム作り」の歩みを、具体的なお話を通して学び合いました。

飯田市立上村小学校 市川史織教頭先生のお話より（抜粋）

【「和をもって尊しと為せ」がモットー】

○余計なおせっかいを！ …前向きな気持ちが前面に出てこない先生の意見こそ大切にしたいと考えて、できるだけ声がけをしました…

○先生方との連携（つなぎ）を大切に！…わざと大きな声で「ねえねえ、この間、この〇〇の話していたよね。ちょっと、今、その話しているの。時間あります？」と会話の中に巻き込む配慮も…

○話せる限りは「校長先生」「教頭先生」に先生方の状況を知ってもらおう！ …校長先生方は学校の「お父さん、お母さん」。知ってもらうことが職員集団のモチベーションが上がることにつながる…

…この多くのやり取りが、苦しい時期もあるけれど、やりがいを感じられる、大きな力をみんなで発揮していける温かな学校になると実感しています…



波田小学校 宮崎正資先生の実践発表の概要

○未来の教室実証事業の紹介

教育委員会の伴走、20回以上のミーティング…不安も…

○取組みの歩み

全職員での協議を重ね、下校時刻を40分早めることを決定
→11月に実施に踏み出す

○取組から感じたこと

様々な課題があるも、一人一人が悩んだうえで納得解を得ることで乗り越え、一つのチームに！

参加された先生方の感想より

市川教頭先生の「自分が納得できないことは、納得できるまで管理職の先生方と話をする。」というお話、宮崎先生が若い先生に伝えた「自分が受け入れていないから子どもたちに話せないのでは」という言葉といっしょになって、自分の甘い部分に刺さりました。「立場上わかった顔をして、立場上他の先生にわかってもらう」ようなやり方ではなく、自分が納得し、他の先生にも納得してもらえるような仕事の進め方を心がけたいと思いました。

講師の先生方のお話から、「周囲の話によく耳を傾け個々に声をかけること、機嫌よく余裕（ぶった）態度でいることを心がけよう」と改めて思いました。グループ討議では、各校の教務主任、学年主任の先生方と濃いお話ができとても有意義な時間がもてました。広い視野と先の見通しをもって業務にあたることに努め、周囲と良好な関係を築き、「生徒のために」を合言葉に、楽しく働きたいと思いました。